

# 小学生ハンドボールクラブの保護者の期待感と効用感:クラブのスタイル別の違いについて

## The Difference of Parents' Expectations and Satisfaction from their Children's Handball Club Activities

1K05B104

櫻井 真悠子

指導教員

主査 木村和彦先生

副査 作野誠一先生

### 【研究の目的】

平成 19 年度の小学生のハンドボール登録競技者数は全国で約 5000 人と、全登録競技者の 6%に満たない。競技者の裾野を広げるという意味でも、優秀な選手の育成・発掘という意味でも、小学生の競技人口を増やすことは急務であり、日本ハンドボール協会も小学生を中心とした地域のハンドボールクラブの創設を進めるプロジェクトを行っている。ただ、一言にハンドボールクラブと言ってもクラブごとに特性があり、今後様々なスタイルのクラブが増えていくことが予想される。また、少子化やスポーツ選好の多様化が深刻化している現代社会において、クラブ員をどれだけ集められるかは、クラブ経営や活動を発展させる上で重要であり、特に子供向けスポーツ活動の場合、入会や脱退の権限は保護者が決定する場合が多い。そこで本研究では、小学生を対象とした様々なスタイルのハンドボールクラブにおける保護者の期待感・効用感の違いを明らかにし、競技人口を増やすための入口であるクラブ育成の方向性について検討する基礎的な資料を得ることを、研究の主たる目的として設定する。

### 【研究方法】

NPO 法人ワセダクラブ ハンドボールスクール・三郷ハンドボールクラブ・東久留米ハンドボールクラブ・麻生フェニックス Jr ハンドボールクラブの4つのクラブを、クラブのスタイルにより地域特化型・総合型・伝統校型の3つに分類し(1つのクラブが2つ以上のスタイルに該当する場合もある)、

スタイルが違えば、保護者の期待感・効用感も違うのではないかと考えた。保護者・子どもの基本属性、クラブに対する満足度、クラブに対する期待感・効用感を聞き、期待感・効用感については、先行研究を参考に、技術的側面・道徳的側面・対人関係的側面・クラブの特性から考えられる側面について質問項目を設定した。各クラブに子供を通わせている保護者を対象に、質問紙調査を留置法で行った。

### 【結果】

統計処理および分析には SPSS 15.0J for Windows を用いた。満足度 7 項目について、F検定を用いて 4 クラブ間での比較を行った結果、③指導に対する満足度、⑤施設・環境に対する満足度、⑦総合満足度の 3 項目でクラブ間の有意差が認められた。また、期待感 20 項目・効用感 19 項目についても同様に統計処理をした結果、期待感 9 項目・効用感 3 項目でクラブ間の有意差が認められ、これをスタイル別に検証した結果、(1) 地域特化型クラブでは、保護者同士の交流を深めたいという期待感が高い、(2) 地域特化型クラブでは、礼儀・マナー、忍耐力をつけたいという道徳的側面への期待感が高い、(3) 総合型のクラブの保護者は、子供にハンドボールが合わなかった場合、新しいクラブや他のスポーツを紹介してほしいという期待感が高い、(4) 総合型のクラブの保護者はハンドボールを遊びとして楽しんでほしいという期待感が高い、ということがわかった。

## 【結論と今後の課題】

同じスタイルのクラブでも期待感・効用感に違いがあることが多く、保護者の期待感・効用感には、クラブのスタイル以外にも様々な要因が影響していることが本研究を通してわかった。クラブに対する保護者の評価を上げ、クラブ員数拡大・クラブの発展につなげていくため、今後の課題として、結果(1) から、地域特化型クラブでは、普段の練習に加えて、行事など保護者がクラブ活動

に参加する機会を設け、保護者同士の交流を促進することが求められる。(2) については、子どもの競技継続年数が長いほど道徳的側面への効用感を感じている傾向が見えてきたので、低学年から競技を始めやすい環境づくりが必要である。(3) (4) については、総合型の特性を生かして様々なスポーツに触れる機会を作ること、そして、ハンドボールを生涯スポーツとして楽しめるように指導していくことが望まれる。